

セーフコミュニティの次期国際認証について

久留米市は、令和5年12月に3回目のセーフコミュニティ国際認証を取得しました。
それに伴い、令和6年度のセーフコミュニティ推進協議会で承認された基本方針に則って、セーフコミュニティのさらなる周知や取組の拡大を図っているところです。
本年度、3回目の認証から2年目に入ったばかりですが、次の認証に向けて対策委員会委員の皆様等のご意見もお伺いし、令和8年度には、セーフコミュニティの次期国際認証についての対応方針を決定していきます。

1 久留米市のセーフコミュニティの現状

(1) これまでの経過

久留米市では、安全安心やまちづくりに関する課題を解決するためのツールとして、セーフコミュニティに着目し、平成23年にセーフコミュニティ取組宣言を行いました。
その後、平成25年に最初の国際認証を取得し、5年に1度の審査を経て、令和5年には3回目の認証を取得したところです。

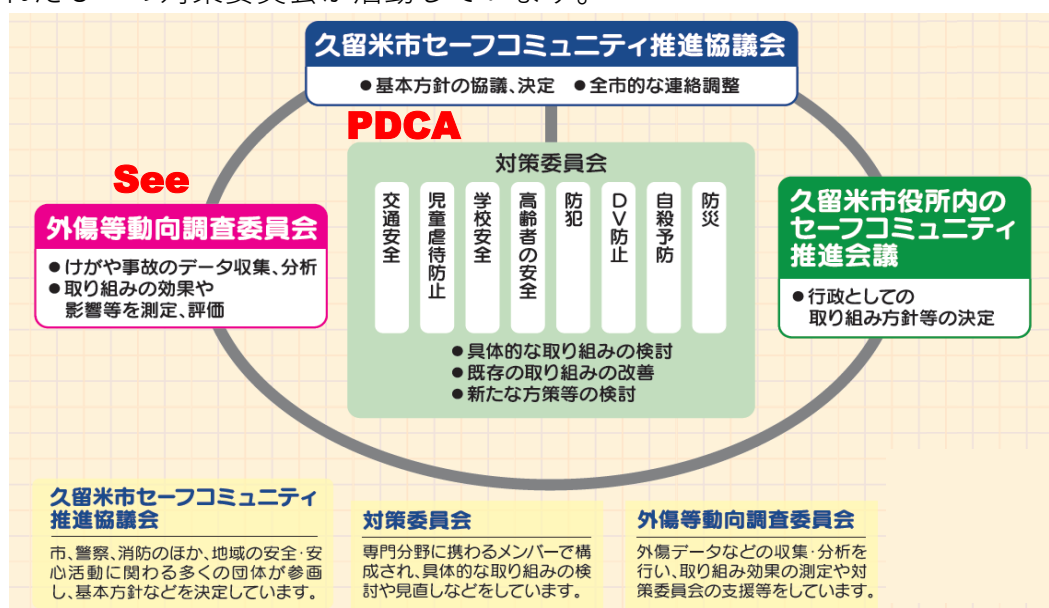


【セーフコミュニティを始めた理由】

- ① 事故、犯罪や暴力事件に対する市民の不安感が高い状況
- ② 客観的なデータに基づいた予防と成果分析による安全安心の向上への期待
- ③ 校区コミュニティ組織、市民活動団体等と連携し、地域が一体となった「協働のまちづくり」の推進

(2) 推進体制

久留米市では、市内 55 団体が構成する推進協議会のもと、重点的な課題を抽出して組織された 8 つの対策委員会が活動しています。



(3) 重点取組分野・項目

様々なデータに基づき、久留米市内で発生しているけがや事故等の状況から、6 分野および 10 の項目を決めて、重点的に取り組んでいます。

重点取組分野	重点取組項目	対策委員会
1 交通安全	① 高齢者の交通事故防止 ② 自転車事故の防止	交通安全対策委員会 (事務局：安全安心推進課)
2 子どもの安全	③ 児童虐待の防止 ④ 学校の安全	児童虐待防止対策委員会 (事務局：家庭子ども相談課) 学校安全対策委員会(事務局：学校教育課)
3 高齢者の安全	⑤ 転倒、溺死溺水の予防 ⑥ 高齢者虐待の防止	高齢者の安全対策委員会 (事務局：長寿支援課)
4 犯罪・暴力の予防	⑦ 犯罪の防止・防犯力の向上 ⑧ DV 防止・早期発見	防犯対策委員会(事務局：安全安心推進課) DV 防止対策委員会 (事務局：男女平等政策課、男女平等推進 C)
5 自殺予防	⑨ 自殺・うつ病の予防	自殺予防対策委員会 (事務局：保健所保健予防課)
6 防災	⑩ 地域防災力の向上	防災対策委員会 (事務局：防災対策課、地域福祉課)

(4) 成果

平成 25 年に最初の国際認証を取得して以来、コロナ禍の影響による数値の変動が見られた時期もありましたが、データに基づいた様々な施策を地域との協働で継続的に取り組んだ結果、各項目の代表的指標において概ね着実に成果が出ています。

対策委員会	重点取組項目	指標	評価	H25 年度 (初回認証)	H30 年度 (再認証)	R5 年度 (3 回目認証)
交通安全	高齢者の交通事故防止	交通事故発生件数 (人口 10 万人あたり)	◎	3,139 件 (1,026 件)	2,125 件 (703 件)	1,322 件 (438 件)
	自転車事故の防止				37.8%減	
児童虐待防止	児童虐待の防止	児童相談件数 ※	◎	997 件	1,786 件	3,423 件
					1.9 倍	
		児童虐待対応件数 ※	◎	170 件	261 件	508 件
					1.9 倍	
学校安全	学校の安全	ケガ発生件数 (全小学校)	◎	1,489 件	1,583 件	1,241 件
					21.6%減	
高齢者の安全	転倒予防	転倒を予防するための対策を行う人の割合	○	62.9%	64.7% (R1 年度)	64.5% (R4 年度)
	高齢者の虐待防止	高齢者虐待の通報件数 ※	○	88 件	100 件	75 件
					高齢者人口は増加 通報件数は横ばい	
防犯	犯罪の防止・防犯力の向上	一般刑法犯認知件数 (人口 10 万人あたり)	△	3,774 件 (1,234 件)	1,881 件 (615 件)	1,971 件 (653 件)
			◎		4.7%増	
DV防止	DV防止・早期発見	主訴がDVの相談件数 ※	◎	1,290 件	1,425 件	2,512 件
					1.8 倍	
		他の機関から相談に繋がった件数 ※	○	12 件 (H27 年度)	20 件	15 件
					1.9 倍	
自殺予防	自殺・うつ病の予防	自殺者数	◎	57 人	50 人	47 人
					減少傾向ではあるが 引き続き対策を進める	
防災	地域防災力の向上	校区防災士養成人数	◎	15 人 (H28 年度)	のべ 64 人	のべ 171 人
					2.7 倍	
					11.4 倍	

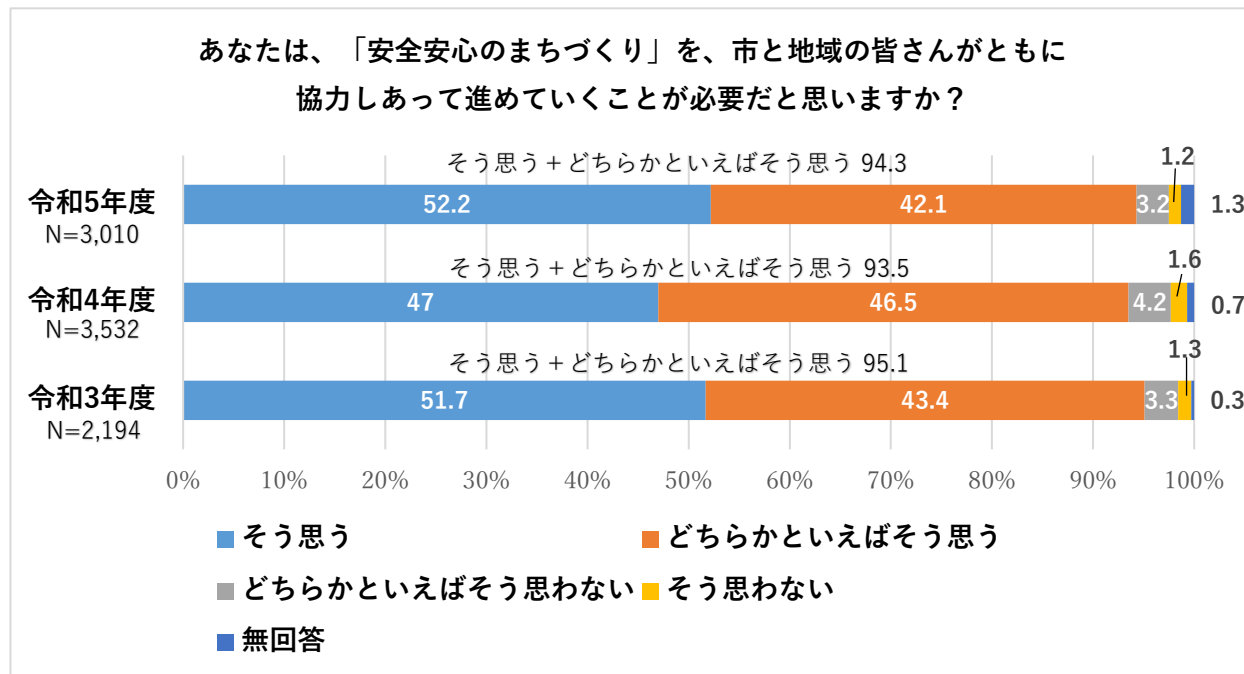
※ 相談窓口の認知度向上や社会的関心の高まりにより、これまで表に出ていなかったケースが相談につながることで、件数が増加している。長期的には減少を目指している。

(5) セーフコミュニティに関する市民の意識調査

市民意識調査やセーフコミュニティ実態調査、くるモニでセーフコミュニティに関する市民の考え方を把握してきました。

① 「安心安全のまちづくり」の協力体制 (市民意識調査)

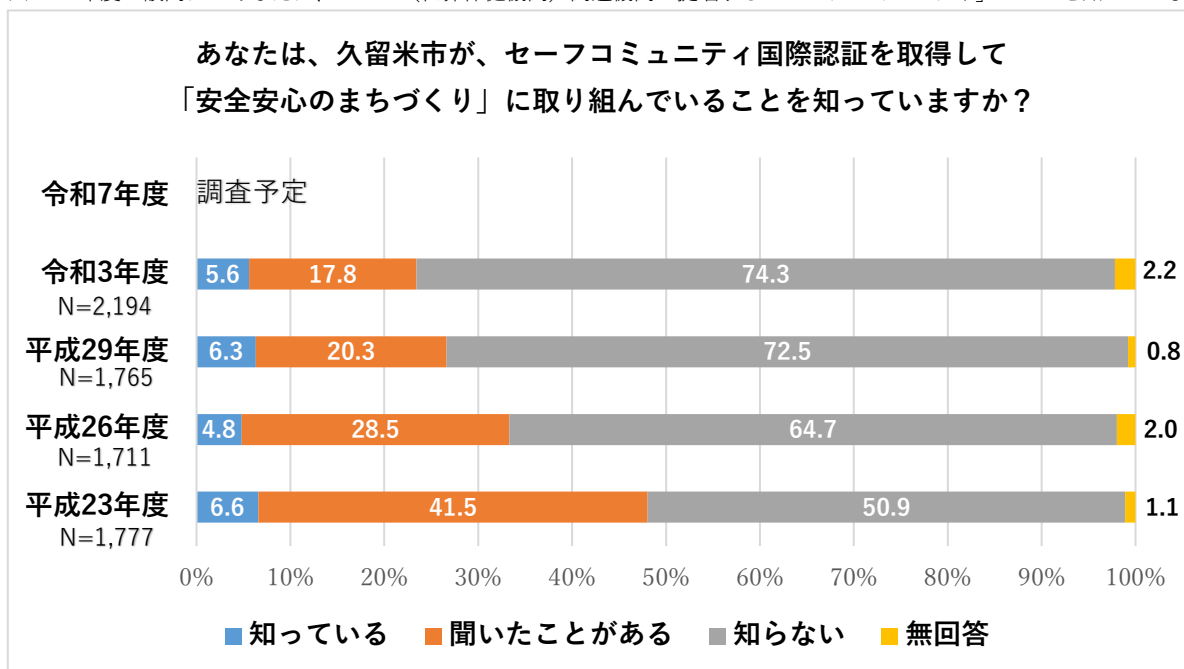
9割を超える市民が、協働による安全安心のまちづくりが必要だと回答しています。



② セーフコミュニティの認知度 (市民意識調査)

1回目の認証取得翌年(H26)の認知度は3割を超えていましたが、以降低下しています。

※H23年度の設問は「あなたは、WHO（世界保健機関）関連機関が提唱する「セーフコミュニティ」のことを知っていますか。」



2 今後について

「安全安心のまちづくり」については、セーフコミュニティの仕組みを活用し、一定の成果をあげ、協働での「安全安心のまちづくり」に対する市民の意識も高い状況にあります。今後も、協働での「安全安心のまちづくり」を継続して取り組んでいきます。

このような中、令和 10 年度にセーフコミュニティの国際認証が 4 回目の更新時期を迎えますので、次期国際認証について、令和 8 年度には対応方針を定めることができるように進めていきます。

対策委員会の委員の皆様には、今後、アンケート等を通してご意見を伺っていきたいと考えていますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

◇今後の大まかなスケジュール

	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
事 務 局	・ 市民意識調査 ・ 他自治体調査 ・ 評価・検討案の策定	対応方針の決定	事前指導	認証審査・認証式
各対策委員会	対策委員へのアンケート等			
推進協議会	・ 推進協議会での協議			

みんなでセーフコミュニティ賞について

1 趣旨

久留米市が市民協働で取り組んでいるセーフコミュニティにおいて、更なる裾野の拡大や見える化の充実を図るため、セーフコミュニティの重点分野・重点取組項目において、活発に活動している市民（団体・個人）の皆様を対象に、「みんなでセーフコミュニティ賞」を授与します。

2 受賞対象者

各対策委員会の委員が自身以外に、重点分野・重点取組項目で活動している市民を推薦し、対策委員会において認定した方。

3 期待される効果

- ①対策委員以外にもセーフコミュニティに取り組む市民が見える化することができ、裾野の拡大につなげることができます。
- ②対策委員が委員会の取組を振り返り、自分たちの活動とセーフコミュニティとの関係を見直すきっかけになります。
- ③行政（市）ではなく、対策委員が推薦し認定することにより、市民が主体となった取組として打ち出すことができます。
- ④受賞対象者にとっても、自分たちの活動がセーフコミュニティと結びついていることを認識するきっかけとなり、セーフコミュニティへの関心を高めることができます。
- ⑤自分たちの活動を周囲に認知してもらうきっかけとなるとともに、今後の活動へのモチベーションにつなげてもらうことが期待できます。

4 推薦基準

- 1：久留米市に拠点を構え（個人の場合は在住もしくは久留米市に通勤・通学）、セーフコミュニティ重点6分野・重点取組10項目において、対策委員以外で活発に活動している市民（団体・個人）
- 2：対策委員が所属している団体を構成している団体・個人を含む

5 認定方法 推薦された団体について、対策委員会で協議のうえ認定

5~6月 推薦依頼 第1回対策委	<推薦期間>	9~10月 認定 第2回対策委	<調整>	12月 授賞式
---------------------	--------	--------------------	------	------------

6 取組期間 R7 から R9 年度（3 回目の国際認証期間内の 3 ヶ年）

7 受賞者数 各対策委員会 3 名・団体程度 × 8 対策委員会 計 24 名・団体程度

8 授賞式 12 月のセーフコミュニティ標語表彰式と同時開催